



## 病院を受診するときに 気をつけることは何ですか？

病院へ今までにかかった病気やけが、いつ頃からどのような変化があったかなどを、医師にわかりやすく伝えるため、具体的に記したメモ等を持参していくとよいでしょう。また医師から聞いた話もメモしておくともよいでしょう。本人が行きたがらない場合、かかりつけの医師がいれば、その医師に相談し、本人に働きかけてもらいます。あるいは、本人が信頼している上司や同僚、同居していない娘さんやお孫さんが勧めると、案外素直に聞くこともあります。



「健康診断」ということにして、認知症の診断ができる医師がいる病院を受診し、その延長として脳の検査に誘います。家族が心配しているからと、家族のために病院へ行ってほしいとお願いするのも1つの方法です。

本人が行きたがらないのは、認知症は治らない病気あるいは怖い病気と思って不安になっているためかもしれません。そのような気持ちを十分に受け止めて、受診を勧めましょう。



本人の気持ちを十分に受け止めて





就労継続支援事業所に行くのが大変になりました。  
介護サービスを使えますか？

症状の進行により就労継続支援事業所での作業が困難に…

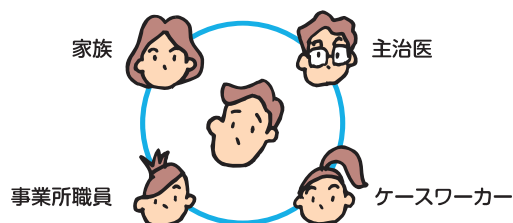
事例  
紹介



Bさんは、就労継続支援事業所で週5日仕事をし、生き生きと過ごしました。戸外の仕事が好きなBさんは、シルバー人材センターの協力を得て、近くの施設の木の剪定や草取りなどの屋外作業をするようになり、夏の暑い日も汗だくで頑張っていました。しかし、1年を過ぎるころから、屋外作業が負担となり、体調不良のため欠勤や作業中休憩することが増えてきました。次第に、何をすることも時間がかかり、手順がわからなくなり、3年目に入るところには、意欲の低下がみられるようになりました。欠勤が増え、週1～2日の利用となり、作業が本人にとってストレスになっている様子から、家族やスタッフ、ケースワーカーとの話し合いで、要介護認定を申請し、デイサービスの利用を始めました。



認知症は進行する疾患なので、本人の能力を見極め、本人のペースに合わせた支援が大切です。家族、事業所の職員、医療機関のケースワーカー、主治医など多職種の連携が重要です。



## 介護保険

認知症の場合、65歳未満でも40歳以上であれば、介護保険が利用できます。若年性認知症の人が最も多く利用しているのが、デイサービス・デイケアです。

## デイサービス・デイケア

もともと高齢者を対象としたサービスであるため、若年の人を受け入れるところは多くありませんでしたが、最近は徐々に増えてきています。

若年の方は体力があり、また高齢者とは価値観が違うので、高齢者向けのデイサービス・デイケアのプログラムでは、満足できない場合もあります。

今までの仕事内容や環境によって、その人に向いているプログラムと、そうでないものがあります。





## 病院で処方された認知症の 治療薬について教えてください。

アルツハイマー病に対しては、アセチルコリン伝達を改善する薬剤、塩酸ドネペジル(アリセプト)が使われます。また、平成26年秋からは、レビー小体型認知症に対しても処方できるようになりました。

これは病気の進行を緩やかにするものであり、根本的な治療ではありません。

平成23年春からは アリセプトに加えて 3種類のアルツハイマー病治療薬が病院で処方できるようになりました。リバスチグミンとガランタミンはアセプトと同様、アセチルコリン伝達を改善する薬剤ですが、リバスチグミンは貼付剤なので、吐き気や下痢などが少なく、ガランタミンは、アリセプトとは別の作用も持っており、アリセプトが効かない人にも有効とされます。

一方、メマンチンはこれらとは作用が異なり、アリセプトとの併用も可能です。

### 認 知 症

商品名	アリセプト	レミニール	リバスタッチ イクセロン	メマリー
一般名	ドネペジル	ガランタミン	リバスチグミン	メマンチン
薬効	認知症の中核症状の進行を遅らせる			
	抑うつや無関心にも効果	神経伝達物質の分泌促進	貼付薬のため、コンプライアンスがよい	興奮や攻撃性に効果
主な副作用	消化器症状(悪心, 下痢)		皮膚症状	めまい, 頭痛
適応	軽度～高度	軽度・中等度		中等度・高度
剤型	錠剤, OD錠, 細粒, ゼリー錠	錠剤, OD錠, 液剤	貼付薬	錠剤

\*OD錠:水なしでも飲めるように、口の中で溶けるようになっている剤型

